

「目指すべき栃木県立図書館の姿」 ～とちぎの“知”の拠点としての更なる飛躍のために～

県立図書館の目指すべき姿

◎基本理念

県立図書館は、過去から引き継がれてきた“知”との出会いと、新たに未来へと引き継がれていく“知”の創造の場であり、人と情報、人と人をつなぎ、とちぎの人づくり、地域づくりを支える“知”の拠点である。

○運営の基本方針

高い専門性を有する司書と豊かな蔵書を基盤としつつ、本県の文化や歴史に関わる資料を広範囲に収集・保存・活用し、市町立図書館への支援・補完により県内図書館サービスの向上に努め、県民文化の発展や振興に寄与する。なお、一般的な蔵書や日常的なレファレンスは市町立図書館が、より専門的な蔵書・レファレンスは県立図書館が担うなど役割分担の一層の明確化を図る。

柱1 「“とちぎ”のことなら何でもわかる図書館」へ

【現在】

（知の財産の活用が不十分）

栃木県に関する地域資料の収集

知の
財産
の
蓄積・
発信

【目指すべき姿】

知の財産を守り育み、発信する図書館へ

栃木県に関する地域資料の収集

+

文書館、博物館との連携強化

個人・企業が所有する資料を発掘

データベースをウェブ上で情報発信

柱2 「県内図書館をリードする中核的図書館」へ

【現在】

他の図書館の本も借りることは可能だが、1週間待ち。他の図書館の蔵書も検索できるが、システムが老朽化

県立図書館、市町立図書館で個別の保存方針により資料保存

蔵書のデジタル化

子どもの読書活動

指導者の養成、関係機関との連携・支援

読み聞かせ

支援
強化

【目指すべき姿】

中核的役割を果たし、利用者の立場を重視した「県内図書館全体で一つの図書館」へ

相互貸借体制・図書館総合目録システムの利便性向上

県内の貴重資料を確実に未来へ継承

データの共有化・アーカイブ化

指導者養成や関係機関とのネットワークの強化
先進的な事業や県全体への普及事業に重点を置く

柱3 「県民の課題解決のための図書館」へ

【現在】

資料収集

専門書、資料価値の高い図書

一般図書、実用書、ベストセラー

レファレンス

専門的

一般的・日常的

学生向けの学習室

特化

転換

【目指すべき姿】

知の財産を利活用し、県民の知の向上に資する図書館へ

資料収集

専門書、資料価値の高い図書

レファレンス

専門的レファレンス

課題研究スペースを提供

「目指すべき姿」(機能・役割)を実現するために

望ましい施設のあり方

更に県民の期待に応えることができる図書館を目指すためにも、次の点を考慮するよう提案

○アクセス性の向上

○バリアフリー対策

○文書館・博物館・美術館などと調和のとれたまちづくりなど、知の拠点にふさわしい環境や立地の確保

○災害に強い保管機能の強化

○電子化の進展への対応

○地球環境への配慮

○効率的な閲覧機能の確保

求められる組織・職員像

【組織像】

○基本理念・基本方針を共有し、各々の役割を積極的に果たしていく組織

○資質向上を積極的に行うなど、前向きな意欲のある組織

○図書館協議会の意見を取り入れながら、自己改革する組織

【職員像】

○社会情勢の変化や県民ニーズを的確に捉え、常に自己変革ができる職員

○一丸となって、県立図書館の目指すべき姿の実現に積極的に取り組む職員

○情報通信技術（ICT）の進展に対応できる職員

○幅広い教養を持ち、専門分野に精通した職員

○図書館をマネジメントできる職員